

東京都江戸東京博物館外 6 施設
指定管理者評価委員会
(美術館・博物館部会)

令和 8 年 7 月 2 9 日 (水)

東京都庁第二本庁舎31階 特別会議室27

午後 3 時 03 分開会

金山委員長：それでは、ただいまから東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会美術館・博物館部会を開会いたします。

本委員会は、専門分野ごとに対象施設を分けて部会を設置しており、本部会では美術館・博物館についての評価の審議をしていただきます。なお、ホールにつきましての評価の審議は、8 月 5 日水曜日を予定しております。美術館・博物館部会の評価委員の紹介については、委員名簿をもって代えさせていただきます。

本部会の部会長については、「東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会設置要綱」第 6 の 3 により、東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会委員長である私が務めさせていただきます。円滑な議事進行に御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

金山部会長：それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず「2 事前説明」を事務局からお願いいたします。

山添課長：まず、私からお手元の書類の確認をさせていただきます。

本日お配りした資料は、机上のタブレットに入っておりますけれども、資料 2 と資料 3、それぞれ第二次評価（案）と 7 年度目標達成シートにつきましては、紙であったほうが見やすいので、紙資料として配付をさせていただいております。御不足のものがありませんら、このタイミングでお申し出いただければと思います。

タブレット操作につきましても、もし御不明な点がございましたら事務局にお知らせいただければと思います。

指定管理者評価委員会につきましては、総務局総務部グループ経営戦略課が定めております「東京都指定管理者制度に関する指針」におきまして、委員会を原則公開で開催することが定められております。これを受けまして、「東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会設置要綱」第 10 においても公開について定めておりまして、これに基づき、本委員会を公開で開催をしております。配付資料及び議事録についても、委員会終了後に都のホームページで公開いたします。

それでは、評価に関する御説明に移らせていただきます。

評価の流れといたしましては、まず都で一次評価を行い、その評価も参考にしながら本委員会において御審議いただきまして、二次評価を決定していただきます。

今後の予定ですけれども、本委員会で決定していただいた評価を基に、8 月中旬を目途に都で最終的な評価を決定いたしまして、9 月中旬に令和 7 年度の指定管理者の評価といたしまして、プレス発表、ホームページで公表といった流れを予定しております。併せまして、評価の内容を指定管理者に通知いたしまして、文化施設の管理運営の今後の改善を図ってまいりたいと考えております。

一次評価について御説明いたします。

資料 1 「東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者管理運営状況評価、一次評価総括

表」を御覧ください。評価の方法につきましては、評価表にある確認項目につきまして、指定管理者からの報告書や日常の实地検査、ヒアリング等を基に、計画どおり事業が実施されているかどうかを主眼にしまして「水準を上回る」、「水準どおり」、「水準を下回る」の3段階で評価し、その合計点を算出して一次評価とさせていただきます。標準点につきましては、全項目において水準どおりの評価を受けた場合の合計点を設定しておりまして、評価結果は、S、A、B、Cの4段階にしております。具体的には、合計点が標準点の1.33倍以上でS、1.25倍以上1.33倍未満でA、0.88倍以下でC、それ以外をBという形で評価しております。

確認項目の設定につきましては、施設の設置目的や指定管理者の果たすべき役割などを踏まえまして、各館の管理運営基準や事業計画に基づき、最も効果的に管理運営状況の評価できる確認項目というものを設定しております。それぞれの項目に対する評価水準については、同じく管理運営基準ですとか事業計画を根拠に設定をしております。本日の評価対象施設につきましては、令和2年度に指定管理者を特命選定しており、特命要件は問題なく継続していることを確認しております。

一次評価結果につきましては、庭園美術館がS、江戸東京博物館、東京都美術館、写真美術館、現代美術館がAとなっております。詳細の評価理由につきましては、事前に皆様に御説明させていただいているので、本日は割愛させていただきます。

二次評価につきましては、項目の評価は一次評価同様、「水準を上回る」、「水準どおり」、「水準を下回る」の3段階で評価いただきます。二次評価結果は、こちらも一次評価と同様に、S、A、B、Cの4段階で評価いただくことになっております。

二次評価の進め方についてですけれども、委員の皆様から事前に御提出いただきました評価を集約したものを、紙で配付しておりますけれども、資料2「二次評価（案）」でございます。委員の皆様の評価が分かれている場合、より多かった評価を記載しておりまして、異なる評価を括弧書きで併記させていただいています。この後、各館のプレゼンテーションや質疑応答、松本専門委員からの財務状況説明、名古屋専門委員からの施設サービス状況説明を御参考にしていただいて、二次評価（案）を検討いただいて評価を決定していただければと考えております。二次評価（案）につきましては、財務の状況については松本専門委員、施設サービスの実施状況については名古屋専門委員を含め皆様の評価を集約しております。

また、「改善が望まれる点」について補足させていただきます。先ほど申し上げました「東京都指定管理者制度に関する指針」において、「改善が必要な場合又は改善が望まれる場合には指定管理者に対し、改善策の策定と速やかな実施を指示する。指定管理者の取組内容を確認・公表し、その結果を次年度の評価委員会に報告する」とされております。

説明は以上です。

金山部会長：それでは、議事のほうに移らせていただきます。

なお、二次評価の決定については、委員の皆様の合議により決定させていただければと

と思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

金山部会長：ありがとうございます。

そのほか、先ほどの事務局からの説明について御質問はございますか。

それでは、次第に従いまして、「3 プレゼンテーション及び質疑応答」に移ります。
では、よろしくお願いします。

（各館・歴史文化財団本部職員 入室）

金山部会長：皆さんおそろいでしょうか。今年もよろしくお願いいたします。

では、各館及び歴史文化財団本部から、着座のままで結構ですので自己紹介をお願いいたします。

松井総務部長：本日は御説明のお時間をいただきましてありがとうございます。私、東京都歴史文化財団総務部長 松井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、前列、各館の職員から自己紹介を、まずさせていただきます。

猪俣副館長：江戸東京博物館副館長 猪俣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

中村管理課長：江戸東京博物館管理課長 中村と申します。よろしくお願いいたします。

新田事業企画課長：江戸東京博物館事業企画課長 新田と申します。よろしくお願いいたします。

宮永副館長：東京都写真美術館副館長 宮永でございます。よろしくお願いいたします。

丹羽事業企画課長：写真美術館事業企画課長 丹羽でございます。よろしくお願いいたします。

渡邊副館長：東京都現代美術館副館長 渡邊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

貝瀬副館長：東京都美術館副館長 貝瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

牟田副館長：東京都庭園美術館副館長 牟田と申します。よろしくお願いいたします。

松井総務部長：では、引き続きまして、後列の財団本部職員を御紹介いたします。

工藤企画部長：企画部長 工藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

早乙女総務課長：総務課長 早乙女と申します。よろしくお願いいたします。

湯川企画課長：企画課長 湯川でございます。よろしくお願いいたします。

佐藤予算係長：財務課予算係長 佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

畠山予算担当係長：財務課予算担当係長 畠山と申します。よろしくお願いいたします。

早崎人事担当課長：本部総務部人事担当課長 早崎と申します。よろしくお願いいたします。

歴史文化財団からは以上となります。

金山部会長：どうもありがとうございました。

それでは、各館のプレゼンテーションを始めます。

各館持ち時間は8分程度で御説明をお願いいたします。事務局のほうで途中、時間をお知らせするベルを鳴らせていただきます。所定時間が経過しましたら1回、3分超過しますと2回鳴らせていただきます。時間内での説明をぜひお願いいたします。

それでは、最初に江戸東京博物館猪俣副館長から、令和7年度の施設運営についてプレゼンテーションを行っていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

猪俣副館長：御紹介にあずかりました副館長の猪俣です。江戸東京博物館につきまして御説明させていただきます。なお、お時間の都合もございますので、本館と江戸東京たてもの園、分館ですね、一緒に御説明させていただくことを御了承ください。それでは、説明させていただきます。

まず、館のミッションを踏まえた令和7年度における特徴的な取組を御説明させていただきます。既に御承知のとおり、リニューアルオープンに向けて令和4年度に着工いたしました大規模改修工事につきましては、令和7年度で終了いたしまして、3月31日に本館は無事リニューアルオープンを迎えております。オープン後は日々多くのお客様にお越しいただいております、休館中の職員の取組が実を結んだものと感じてございます。昨年度はオープンに向けた取組と、館外に向けた普及活動などを実施してまいりました。

1つ目として、本館休館中の事業継続では、棟及び館の工事に係る調整やリニューアルオープンに向けた準備を進める一方で、館外施設の活用やアウトリーチ等により事業を行っております。まず各地における展覧会ですが、資料3-1の目標達成シートの本館の部分、こちらの2にございます巡回展の共催者として「どうぶつ百景」展を愛知県美術館と富山県水墨美術館で開催いたしました。また、展覧会の監修者として「Quiz Knockと巡る江戸東京博物館」展、こちらを東北歴史博物館での開催に協力をさせていただきました。

次に、3にございます、令和4年度以降実施しております教育普及事業、「えどはく移動博物館」での展示や、ワークショップの展開についてですが、令和7年度は出張展示を、べらぼう江戸たいとう大河ドラマ館が開館されておりました台東区民会館で実施いたしまして、江戸文化に関心のある層に向けた集客施設で、当館常設展示のエッセンスを紹介することができました。

一方、新島村立式根島小学校では、出張展示とワークショップを同時開催し、例年同様、島嶼部で当館の事業を提供するというのもいたしまして、また、学校等に赴く出張ワークショップを12校で実施いたしまして、うち10校は、特別支援学校で障害のある児童・生徒の皆さんへの学習機会を提供いたしております。

次に、5にございますえどはくカルチャーですが、江戸東京たてもの園や東京都美術館、都立の清澄庭園など、外部の会場を利用して行っております。

次に、6にございます国際交流事業では、韓国ソウル歴史博物館で開催されました日中韓博物館国際シンポジウムに参加して研究発表を行い、また、ソウル歴史博物館で開催さ

れました「心の交わり、余韻は波の如く」展に特別協力を行いまして、当館から7件の収蔵資料を出品し、展覧会準備のために相互に訪問しながら実務交流を行ってございます。

国内におきましては、全国歴史民俗系博物館協議会の事務局館として香川県立ミュージアムでの年次集会を開催いたしまして、川崎市市民ミュージアム等の災害等による被災文化財のレスキュー活動にも協力・連携してございます。

次に、2つ目といたしまして、デジタル技術の活用でございます。資料の魅力や館外活動をデジタル技術、ウェブ媒体の活用により発信しております。まず、3にございます「ハイパー江戸博 大正ロマン浅草編」をリリースいたしまして、シリーズ4作で約35万件がダウンロードされております。常設展示室内外で機能する「ハイパー江戸博XRミュージアム」を制作いたしまして、ハイパー江戸博のコンテンツを活用したXRコンテンツ「エクストリーム江戸博」、こちらも制作し、都内ショッピングモールである南砂町のSUNAMOと、東京駅八重洲口中央改札外イベントスペースにおいて公開をさせていただきました。

また、1にございますデジタルアーカイブ事業は、9万件以上を新規公開、累計約32万件の資料情報を公開しております。

また、たてもの園につきましては、たてもの園の目標成果シートの5にございますが、令和5年度に開発いたしました江戸東京たてもの園鑑賞ナビの見どころ解説を拡充いたしまして、全ての復元建造物、屋外展示物に解説文を付加し、テキスト・音声とも従来の日本語、英語に加え中国語、韓国語を追加いたしました。なお、こうしたことも実を結び、たてもの園に関しましては、年間の入園者数目標25万人を大幅に上回ります28万7,000人という入園者数を数えました。

そのほか、ウェブでの情報発信として、ユーチューブにおける学芸員によるたてもの園の展覧会紹介や、本館新規収蔵資料紹介等の活動紹介を行うなど、各種媒体でも発信いたしました。X等のSNSでは、他媒体と連動した事業PRのほか、季節等に合わせた資料紹介、動画配信を行い、Xのフォロワーも増加してございます。

次に、3つ目として、館の魅力向上についてです。4にございます来館者サービスの質の向上を図るための運営の検討や安全対策などの準備を進めるとともに、3階にございます江戸東京ひろば、6階にございます常設展示室での映像投影など、館の魅力を高め、広報展開としては、来館者増に確実に結びつくよう、休館中においても江戸博の魅力を国内外に広く発信いたしました。各種広報物のデザインを一新し、公式ホームページのリニューアルを行い、アクセシビリティの向上など、閲覧しやすいサイトも構築いたしました。また、リニューアルオープンイベントを実施いたしまして、機運の醸成も図ってございます。

また、2にございます常設展示の復旧工事及び展示リニューアルを実施いたしまして、御承知と思いますが、服部時計店や本石町の時の鐘、花やしきの門など、新たに模型を制作したほか、のれんに着想を得た仕切りや、江戸のまちをイメージした通りの演出など、

空間構成にも工夫を凝らし、触察模型やパネルの色彩表現、13か国対応の音声ガイドなど、情報保障にも注力いたしました。標本資料につきましては、4年がかりで35万点を搬出、図書資料については3年がかりで25万点を搬出し、外部倉庫で適切に保管管理しております。また、昨年度は、これらを本館収蔵庫、書庫に再収容する作業にも取り組んでおります。

最後になりますが、事業実施に当たっての課題でございます。令和6年度指定管理者評価におきまして課題として挙げていただいた事項は、特にございませんでした。

以上で、甚だ簡単ではございますが、御説明を終了いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

金山部会長：ありがとうございました。

それでは、ただいまの江戸東京博物館のプレゼンに対して、何か御質問等ございますでしょうか。

名古委員、お願いします。

名古委員：名古です。

休館中でありながらいろいろな事業をされていて、素晴らしいと思っていました。デジタルアーカイブスですが、これだけの数をデジタル化するのは大変だっただろうと思います。デジタル化した後で特によく閲覧されているものとか、そういうデータは取っていますか。新しいものになればなるほど、データ数は少なくなると思いますが、どのように閲覧されているかなどは見えていらっしゃいますか。

新田事業企画課長：私のほうからお答えを申し上げます。

閲覧されているかどうかという確認はできると思うのですが、集計や統計といったところには、手が回っていない状況です。ただ、外部からの問合せは非常に増えている状況にあります。

名古委員：ありがとうございます。数がそろってきて整理もされている状態なので、広報的な役割も担っていると思いました。閲覧履歴のデータを取られたら、こういうものが喜ばれるんだとか、そういうのも分かってくると思いましたので御質問させていただきました。ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

浦島委員：浦島と申します。よろしくお願いします。

まずはリニューアルオープンおめでとうございます。リニューアルで面白いなと思ったのが、江戸東京ひろばの映像投影なんですけれども、あれはあのコンテンツだけなのでしょ。これから増えていったり何か展開していく予定はありますか。

猪俣副館長：私から回答させていただきます。

同じものをずっと映し続けるというのは、なかなか集客にもつながりませんので、また今後内容を変えたりとか、そういうことは一応考えております。

浦島委員：ありがとうございます。

金山部会長：よろしいですか。

それでは、私のほうからなのですが、3月31日にリニューアルオープンをされたということで、どうも本当におめでとうございます。

それで、先ほど外部収蔵庫から本館のほうに、これまで移動させていた資料を移管したということなのですが、その進捗状況について、これはもう完全に終わったのか、まだ途中なのか、あるいは、外部収蔵庫は一定量残していくのか、その辺の状況というのはどうなっているのでしょうか。

新田事業企画課長：私のほうからお答えを申し上げます。

昨年度12月から外部収蔵庫からの搬入を開始しておりまして、現在、来年度いっぱいをめどに戻していく作業をしているところですが、収蔵品に関しては現状、全て戻るかというところは、厳しい状況でございます。

ただ、収蔵品の保管のレベル感なども検討し、戻し方を工夫していこうと検討しているところでございます。

金山部会長：外部収蔵庫の使用期間というのは決まっているんですか。

新田事業企画課長：今のところは決まっておりますが、その先についても必要に応じて延ばしていただくような形で相談をしているところでございます。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、時間のほうもちょうど来ましたので、江戸博につきましてのプレゼンは以上で終了したいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして写真美術館の宮永副館長、どうぞよろしくお願いいたします。

宮永副館長：ありがとうございます。写真美術館の宮永でございます。令和7年度の当館のミッションを踏まえた特徴的な取組3点を御説明いたします。

1点目は、質の高い展覧会、新たな創造の支援でございます。当館では、収蔵作品を様々な切り口で紹介する収蔵展、自主財源によります自主企画展、外部の企画・外部資金を活用した誘致展、この3種類の展覧会を3つのフロアで展開しております。なお、令和7年は当館の総合開館30周年でございます。4月から12月までの収蔵展・自主企画展は、総合開館30周年記念事業として開催いたしました。

収蔵展は5つの展覧会を実施いたしました。重点収集作家、鷹野隆大の個展では、アーティストとデザイナーの対話により、広報物の域を超えたキービジュアルを生成し会場構成へ展開したことなどが高い評価を得まして、グラフィックデザイナー、北川一成氏がアートディレクターズクラブ（ADC）2025のグランプリを受賞いたしました。本展は広島現代美術館へも巡回いたしました。

「TOPコレクション 不易流行」展と「トランスフィジカル」展では、ベテランが中堅や若手をオン・ジョブ・トレーニングする場として次世代へ継承する取組を行い、「作家の現在」展では、現在進行中の制作を公開するなど新たな取組を行い、出品作家の志賀

理江子は、第1回梅原猛人類哲学賞を受賞いたしました。

年度末には、ユージン・スミスがドキュメンタリー写真の巨匠となる前の時代に焦点を当てました「ニューヨーク ロフトの時代」展を若手学芸員の視点で構成し、多くの学生、若年層の来場者を得ました。

自主企画展は、2つの国際展と新進作家展を開催いたしました。長年にわたり御遺族と関係を構築し、財団やイタリア大使館と連携して国内初となる「ルイジ・ギッリ」展を開催し、図録が増刷のたびに完売となるなど大変好評で、韓国ハンミ美術館の国際巡回もいたしました。

ペドロ・コスタの東京での初となります日本最大規模の個展も開催し、当館限定のインスタレーションですとか新作を発表したほか、第22回となります「日本の新進作家」展では、出品参加の寺田健人が関連作品でVOCA賞を受賞するなど、注目を集めました。

恵比寿最大のアートフェスティバルへと成長した恵比寿映像祭では、映像、写真のみならず、サウンド表現、シンポジウムや近隣飲食街なども加えた地域連携、都のスマカル事業と連携してマイグレーションを行うなど、多様なプログラムを展開し、祝祭感を盛り上げ、広く写真美術館の存在感を高めるミッションに貢献いたしました。

誘致展は、国内外の企画者と共催して6つの展覧会を実施いたしました。中でも「被爆80年ヒロシマ」展は、中国新聞社を中心とするメディアが連携し、大きな反響を呼び、来場者は3万7,000人を超え、2026年日本写真協会学芸賞を受賞いたしました。

年度越しで開催いたしました「養老孟司と小檜山賢二の虫」展は、春休みの子供だけではなく、最先端技術によって超拡大された、ここでしか見ることのできない虫の姿を求めまして、老若男女の虫ファンが訪れました。

こうした結果、年間観覧者数は前年度比3万2,856人増の40万7,846人となりまして、目標の38万人を達成し、12年ぶりに40万人を突破いたしました。

2点目は、未来を見据えた写真・映像文化の普及、開かれた美術館です。総合開館30周年事業として、国内外ゲストを迎え、写真史から美術館運営、収蔵作品のレジストレーションまで、多岐にわたるトークセッションを7本開催し、ウェブサイトアーカイブも構築いたしました。

教育普及事業では、児童・生徒が能動的に関わる体験的学びを行いまして、多様な生きる力を育むスクールプログラム、ビジネスパーソン対象の鑑賞会や、日本大学芸術学部と連携したワークショップの開催など、パブリックプログラムも充実させ、好評を得ました。

また、ウェブサイトのアクセシビリティを向上するとともに、ボランティアスタッフによる鑑賞サポート、UniVoiceによる展示解説など多彩なプログラムを実施し、誰もが参加できる開かれた美術館に向けて取組を進めました。

さらに、図書室では写真・映像に関する専門書の希少性が高まっております。レファレンスだけでなく、様々なテーマの特設展やライトユーザー向けの選書サービスを年間通じて実施するほか、ロービジョンの方も気軽に利用できるよう、機器の貸出しですとか、や

さしい図書室ガイドなどを通じまして、利用者層の拡大にも努めました。

3点目は、自主財源確保でございます。当館の主な自主財源は、入場料金、カフェ・ショップの収益、他団体からの助成金、支援会費でございます。当館は施設規模が小さく、駐車場、レストランがございません。そのため独自の支援会制度を運営しております。企業業績はコロナ禍からの回復傾向にあるものの、引き続き厳しい社会経済情勢の中、丁寧なアプローチのほか、昨年度は支援企業懇親会の再開ですとか、特別内覧会などの工夫も凝らしまして、新規会員の獲得、退会防止に努め、6,000万円超の会費収入を獲得いたしました。

最後に、作品収集活動について御報告申し上げます。昨年度収集実績は376点、延べ42作家、全収蔵点数は3万9,135点となりました。展覧会の美術館活動に資する作品ですとか、歴史的な希少作品に加えまして、新進作家支援、コレクションのジェンダーバランスを整える視点を重視しながら収蔵し、順次デジタル公開を予定しております。昨年度、都費による購入の98点に加えまして、支援会費による購入が1点、こちらの作品は、写真史に欠かせない、ロジャー・フェントンの希少価値の極めて高い19世紀の室内写真でございます。館内の看板コレクションとなる一品を、継続した調査研究に基づき収集できたものでございます。このほか、寄贈として作家、御遺族、御関係所からの277点もございました。

館外作品貸出し点数は15件94点で、台北市美術館、鳥取県立美術館の開館記念展、また、京都国立近代美術館、国立新美術館をはじめ、国内外で注目される展覧会へお貸出しするとともに、各組織と継続した連携体制の契機ともなっております。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

金山部会長：どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの写真美術館のプレゼンテーションに対して、何か御質問、御意見ございますか。いかがでしょうか。

名古委員、お願いします。

名古委員：名古です。

手元の資料には記載がないですが、インスタのフォロワー数がすごく伸びたというのを別の資料で見て、その伸び方がすごく大きかったと記憶しています。何が功を奏したのか、要因的なものは、どのようにお考えになっていらっしゃるでしょうか。

丹羽事業企画課長：ありがとうございます。私から御説明いたします。

インスタはどんどん伸びているという上昇傾向にはあるんですけども、特に昨年度は30周年記念ということで、集中的に展覧会以外にも広報を少し充実させたというところと、あと昨年度、実は現存作家さんとの関わりが非常に強い展覧会をたくさん行ったので、そういったところから関係者から広がったこと、また、恵比寿映像祭なんですけれども、事務局を広報に強いところと昨年度から組みまして、そこで今までリーチできなかった方たちに向けて発信できているということも、大きな要因になっているかと思います。ありが

とうございます。

名古屋委員：美術館のSNSの使い方は、企画展や展覧会のお知らせに終始してしまうところが課題だと思っていたので、今の御説明で納得できました。ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

浦島委員、お願いします。

浦島委員：恵比寿映像祭についてお伺いしたいのですけれども、コミッションワークなど新しい取組を多くしているかと思うのですけれども、そうやって映像とかの最先端のほうに突き詰めれば突き詰めるほど、現代美術館さんとの企画や収蔵と被ってしまうような気がするのですけれども、どのようにすみ分けをされているのでしょうか。

丹羽事業企画課長：これも私から御説明させていただきます。

まず映像部門の学芸員だけではなく写真部門もそうなんですけれども、現代の作家さんのメディアと被ってきているので、収集の際は事前に作家さんが重なっていないかどうか、また、作家さんが重なった場合も、どちらのコレクションにひもづけるほうが、都のコレクションとして長くパーマネントコレクションとして活用していくときに、どちらのほうが有効かといったようなことを、事前に相談するようにしています。

また、当館は現代美術館と異なる点として、1階に上映ホールがございまして、こちらで上映型の映画に近い展開をする作品に強いというところも、現代美術館さんとは展覧会ですとか、何かのインスタレーション、プレゼンテーションをするときに、少し差をつけているといったところです。

浦島委員：ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

よろしいですか。

今の浦島委員の質問に関連してなんですが、各館が資料収集の購入予算というのを分配化しているので、それを財団全体として管理して、要するに東京都コレクションというコレクションの名前をつけて、その総額の中で各館必要なものを購入していこうという、従来の分配方式から、総額でそれを必要なところについて手当てをしていこうというふうに、収集方針を変えたように僕は記憶しているんですが、その辺の運用状況というのはどういうふうになっているんですか。

湯川企画課長：それでは、企画課長の湯川が御説明させていただきます。

東京都からコレクションの検討の基準、コレクションの購入の基準の方針というのが提示されまして、全体での予算の中でこうした配分でというような、実は金額のほうの御指示をいただいているというのが現状でございます。

金山部会長：そうすれば重複することはないという、それぞれの館の特性に合わせて差別化して資料の収集ができるというように変えていくということですね。

渡邊副館長：現代美術館、渡邊と申します。

ちょっと補足させていただきますが、東京都コレクション検討会で各館の事業の担当が集まって、その年度に必要なものというのは話し合っています。その中で情報交換をしながら収集する作品というのを選んでいくというのが現状でございます。

金山部会長：ありがとうございます。限られた予算を有効に活用していくということですよね。そのための方針転換だと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、時間になりましたので、写真美術館のプレゼンについては以上で終了させていただきます。

それでは、続きまして現代美術館、渡邊副館長、どうぞよろしくお願いいたします。

渡邊副館長：東京都現代美術館の副館長、渡邊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。館のミッションを踏まえた令和7年度の特徴的な取組などについて御報告をさせていただきます。

東京都現代美術館は令和4年度以降、「ディオール」展や「デイヴィッド・ホックニー」展、「坂本龍一」展など、想定を上回る多くのお客様を迎え、新たなお客様に現代美術のすばらしさを発信してまいりました。令和7年度は30周年という節目でもあることから、日頃の研究成果を発揮し、現代美術の専門性を存分に生かした意欲的な活動を幅広く行いました。おかげさまでその内容について高い評価をいただき、節目の年にふさわしい数々の賞をいただくことができました。

それでは、令和7年度目標達成シートを基に説明をさせていただきます。事業全体の概要につきましては、下から2段目、総合的な所見にありますとおり、コレクション展では、当館のコレクションを戦中・戦後の収蔵品が充実した1935年を起点として、現在までの90年にわたる美術史を10年ごとにたどる展示構成とし、当館のコレクションの重要性和魅力を幅広い来場者に示すことができました。企画展では、これからの30年を見通した課題や問題意識を広く発信する大規模な国際グループ展「日常のコレオ」展をはじめ、日本を代表する造形作家である「岡崎乾二郎」展など、多彩なラインナップを実施し、当館のキュレーション能力を十分に示し、現代美術のコアな愛好者層や専門家からの高い関心と評価を獲得しました。この結果、近年獲得してきたライト層へのお客様に対する効果的な訴求に課題が残るものの、目標人数の93%を達成することができました。当館の外部評価委員会からは、令和5年・6年の展覧会は、社会現象にまでなった例外的なものでもあり、お客様の安全性や鑑賞環境を鑑みると、令和7年度が適正な数値ではないかというような御意見も賜りました。引き続きバランスを鑑みたラインナップを心がけてまいります。

展覧会とともに館の重要な活動であります教育普及事業につきましては、全世代を対象とした普及プログラムに加え、学校教育と連動したスクールプログラム、また、アーティストの一日学校訪問では、2007年以来となる島嶼地域、これは八丈島でございますが、開催をいたしました。そのほか、肢体不自由や院内学級などの特別支援学校など、日頃手の届きにくい層に対して鑑賞機会を提供・創出いたしました。

そのほか、コレクション展の観覧料を全中学生を対象に無料としているほか、館独自の

学生無料デーの実施、SNS発信強化など、若い鑑賞者層の育成にも力を入れてまいりました。また、地元のイベントや清掃活動等に積極的に取り組むなど、館と地域の連携を深め、清澄白河というまちの発展に寄与するよう努めてまいりました。

続きまして、当館のミッションを踏まえた、令和7年度において顕著な実績を上げた事業について御説明します。

1つ目に、開館30周年を迎え、今までの調査・研究を生かした意欲的な現代美術表現を発信ということです。日本を代表する造形作家、また、影響力のある批評家でもある岡崎乾二郎氏の個展では、氏の活動の集大成として、氏が大病から復帰した以降と以前を対比した展示構成と、20年ぶりに手がけた最新テクノロジーを生かした彫塑作品などを展示し、現代美術のコア層の注目と専門家からの高い評価をいただき、毎日芸術賞のほか、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞いたしました。

開館30周年を記念して実施した「日常のコレオ」展では、開館から30年、より多様な背景を持つ人々が暮らす社会における現代美術の活動拠点として、美術館はどのような創造性を発揮すべきかという問いを基点に、これまでの美術館の取組を一層推し進めるとともに、今後の新たな試みを行うプラットフォームとして、アジア地域を中心とした作家およそ30名による作品展示やパフォーマンス等を展開、今後の国際ネットワークの構築に大きく寄与いたしました。

「笹本晃」展では、自ら制作した彫刻、装置、オブジェクトを配した環境の中で、身体・言葉を使った即興的なパフォーマンスを行うアーティストの初めてのミッドキャリア個展を開催、作家のさらなる飛躍を後押しいたしました。また、コンセプチュアルアートの重要な先駆者である「ソル・ルウィット」展では、当館の広い空間を生かしたウォール・ドローイング等を展示し、当館ならではの展示構成に来場者や報道関係者から高い評価を受けました。「笹本」展は今年度大阪の国立国際美術館に巡回、「ソル・ルウィット」展は韓国のアモレーパシフィック美術館で巡回展を行うことになりました。

そのほか、今年度から、美術展覧会の枠を超え実験的で領域横断的なプロジェクトとして新たに開始した「MOT Plusプロジェクト」や、定着してきた「TOKYO ART BOOK FAIR」、美術館の新しい使い方として高い評価をいただきました。

続きまして、教育プログラムの充実と次世代の育成でございます。教育普及プログラムの取組ですが、スクールプログラム全体や講座、ギャラリークルーズ等の参加者が7,244名と、昨年度と同様に多くの方にプログラムを体験していただくことができました。また、団体鑑賞では、昨年に引き続き盲学校や肢体不自由児学校、入院中の子供たちなどとの鑑賞プログラムなどを実施、また、現代作家によるワークショップや学校訪問、手話通訳やワイヤレス補聴援助システムを活用したトーク等を通じ、多様な参加者に対して創造力・観察力の可能性を拡大する事業ができました。

続きまして、当館のコレクションの魅力発信になります。コレクション展では、先ほど述べましたように、開館30周年の節目の年として、当館のコレクションを現在までの90年

にわたる美術史をたどる展示構成とし、コレクションの重要性と魅力を幅広く紹介、入場者数も約15万5,000人と、ほぼ目標値に近い実績を上げました。また、展示・講演以外にもコレクション検索サイトも充実できたことにより、コレクションの調査希望や貸出しの依頼も増加し、質・量ともに魅力あるコレクションを国内外にアピールいたしました。

当館のコレクションは、戦後美術に特化した唯一無二の存在として、日本の現代美術に対する国際的な評価の高まりに対して大きく貢献しているとの評価をいただいております。今後も引き続き、これらコレクションを生かし、初心者からリピーターまで現代美術の魅力を楽しんでいただけるよう、多彩な展示を行ってまいります。

続きまして、あらゆる来館者へのサービス向上の取組について報告をさせていただきます。令和7年度から、エントランスホールの大きな空間の壁面に、一目で分かるアクセシビリティの情報発信コーナーを新たに設置いたしました。これは、来館をした方が当館でどのようなサービスが受けられるかを一目で分かるようにしたものです。併せて、誘導スタッフを配置することで案内体制を充実させるとともに、鑑賞支援の貸出しツールやカームダウンスペースを設置するなど、多様なニーズに対応できるようサポート体制を充実させ、多くの来館者の方に対応することができました。

雑駁ではございますが、以上で現代美術館の令和7年度の取組について説明を終わらせていただきます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

金山部会長：どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの現代美術館につきまして御質問等ございますか。

名古屋委員、お願いします。

名古屋委員：アーティストの一日学校訪問を、一般の方に参加もしてもらえるワークショップとして実施されたということですが、一般の方が学校に来て実施されたということでしょうか。

渡邊副館長：説明が不足していたかと思いますが、アーティストの一日学校訪問は、学校にアーティストが行って生徒さんを対象にしたものです。

ほかにも体験をできるような、アーティストさんが中心となって一般の方を募集するというワークショップ、これも別に行っております。少し説明が短くなってしまったことで誤解を生んで失礼いたしました。

名古屋委員：ありがとうございます。これは何回ぐらい実施されたのですか。

渡邊副館長：昨年度は、アーティストの一日学校訪問は、八丈島等も含めて四、五回行っています。アーティストとの交流は、4回程度行っているかと思います。

名古屋委員：ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

いかがでしょうか。

浦島委員、お願いします。

浦島委員：巡回展について質問なのですが、笹本晃さんとかは国際美術館に行っ

て、ソル・ルウィットがソウルでやるということですが、これは館同士の交流以外に何かメリットみたいなのはあるのでしょうか。

渡邊副館長：ありがとうございます。大阪につきましては、開始する前から国立国際美術館と調整をしていて、巡回をもともと想定して行っておりました。そういった意味でいろいろな経費が削減できるというメリットがございます。韓国の美術館につきましては、当館で行った美術展を御覧いただいて、ぜひやりたいということで、その終了後にお話をいただきまして、急遽体制が整ったという形になります。我々、これから海外との交流を活発化したいと思っていますので、非常にいい足がかりになったというふうに思っております。

金山部会長：ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

よろしいですか。

それでは、時間のほうも押していますので、現代美術館については、以上、プレゼンテーションを終了いたします。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして東京都美術館、貝瀬副館長、よろしくお願いいたします。

貝瀬副館長：それでは、私のほうから東京都美術館の御説明させていただきます。資料は3－5、目標達成シートを御覧いただければと思います。

当館のミッションは、全ての人に開かれたアートへの入り口となることを目指すものでございます。当館、このミッションの実現に向けまして、達成目標にありますとおり、展覧会事業、公募展事業、アート・コミュニケーション事業、そしてアメニティー事業の4つの事業を柱といたしまして、それぞれの取組を7年度も着実に実施してまいりました。ここでは、次の3つの事業に絞って7年度の実績等について御説明をさせていただきたいと思っております。

まず1点目は展覧会事業でございます。特別展につきましては、6つの目標番号のうち2番の欄でございます。まず特別展「ミロ」展でございます。ピカソと並ぶ20世紀を代表するスペイン出身の画家、ジョアン・ミロの各時代の作品を展示いたします大回顧展で、ミロの時代ごとのスタイルやテーマを、作品とともに生前の写真や言葉・映像でたどりまして、ミロ芸術の核心に迫りました。

次に、「ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢」でございます。ファン・ゴッホ家のコレクションに焦点を当てた展覧会で、ゴッホ美術館の作品に加え、日本初公開となりますゴッホの手紙なども展示いたしまして、家族が守り継いできたコレクションを紹介いたしました。家族を打ち出した内容が評判となりまして、入場者数は目標を大幅に超えることとなりました。

次に、1月から年度をまたぎまして今年度の4月まで開催いたしました「スウェーデン 絵画 北欧の光、日常のかがやき」でございます。スウェーデン国立美術館の全面協力の下、スウェーデン美術黄金期とも言える19世紀末から20世紀にかけて生み出された魅力的

な絵画を通じまして、自然とともに豊かに生きる北欧ならではの感性に迫りました。いずれの展覧会におきましても担当学芸員が、展示構成、図録執筆・編集、講演会の実施、借用交渉など、多岐にわたって共催者として関与・貢献しているところでございます。この結果、令和7年度は特別展で86万5,000人の来場者に世界の名品の鑑賞機会を提供することができました。

次に、目標番号の3の欄でございます。企画展でございます。7月から10月にかけて開催いたしました「つくるよろこび 生きるためのD I Y」では、アートとライフの垣根を越えまして、人々のよりよく生きることへの思いが導くD I Yの可能性について、7組の現代作家と建築家の視点で問いかけるものでございました。

次に、公募展事業でございます。目標番号は4の欄でございます。まず、公募団体展につきましては公募団体236団体、教育機関20の展覧会が開催されまして、これらの各主催団体への開催支援を行ったところでございます。また、令和9年度から13年度までの向こう5年度間の新規割り当てを行ったところでございます。新規割り当てに当たりましては、新たに追加募集制度を導入するなど、近年の公募展示室の利用状況を踏まえつつ、課題解決に向けた制度の見直しを行ったところでございます。

公募展活性化事業の企画展「上野アーティストプロジェクト2025」では、「刺繍一針がすくいだす世界」を開催いたしました。今回は、手工芸作品の中で特に刺しゅうの技術を用いました作家5人に注目し幅広い魅力を伝えました。関連プログラムを積極的に行いまして大変好評を得られ、入場者数は目標を大きく上回り、多くの方々に鑑賞いただいたところでございます。

また、同時に開催いたしましたコレクション展では、「刺繍がうまれるとき—東京都コレクションにみる日本近現代の糸と針と布による造形」を開催いたしました。「上野アーティストプロジェクト2025」と関連させまして、東京都コレクションの中から刺しゅうや刺し子と呼ばれるような糸、針、布による造形物とそれに関連する資料を、時代ごとに紹介したところでございます。企画展はいずれの展覧会も目標値を上回り、多くの方々に御覧いただくことができたところでございます。

最後に3点目といたしまして、アート・コミュニケーション事業でございます。目標番号で言いますと5の欄でございます。まず「とびらプロジェクト」では、12期から14期までのとびラー141名と協働し、各種プロジェクトを進めました。

「Museum Start あいうえの」では、学校プログラムといたしまして、とびラーと作品を鑑賞するスペシャルマンデーなどを実施いたしました。ティーンズ・プログラムでは、高校生による共生社会を考えます「みるラボ」を実施いたしまして、聴者、聞こえる人と聾者、難聴者が協力いたしまして、聴覚障害のある子供さんや小学生が展覧会を楽しめるプログラムを企画・実施したところでございます。

また、やさしい日本語プログラムでは、「上野アーティストプロジェクト」を題材にいたしまして、参加者が針と糸で作品を制作・共有するプログラムを実施いたしまして、イ

ンド、中国、ベトナムなどのファミリーが言語や文化的背景を超えて交流したところがございます。

高齢者を対象といたしましたエイジフレンドリー&ダイバーシティ事業では、認知症の方を初めといたします高齢者とその家族のための鑑賞プログラムを、今年度も台東区の福祉医療セクターや東京芸術大学美術館などと連携して実施しております。また、軽度認知障害と診断されました患者さんとその家族に対しまして、文化施設への訪問やプログラム参加を進めますミュージアム処方「上野モデル」を開発いたしました。

発信力強化事業では、AC事業を紹介いたします「アート・コミュニケーション事業を体験する2025」を開催いたしまして、「Museum Start あいうえの」の12年間の活動を、記録写真や映像、子供さんたちの鑑賞ノートなどを通じて紹介させていただきました。

令和6年度から推進しております芸術文化へのアクセシビリティ向上、施設環境整備にも積極的に取り組みました。手話通訳対応スタッフに加えまして、障害全般に対応できる受付スタッフを配置いたしまして、障害のある来館者を想定いたしました防災ツールの開発や、視覚障害者を想定いたしました避難訓練など、危機管理面を重視した取組を実施しました。

事業面では、聾者が出演し手話で野外彫刻を紹介する動画を制作したほか、視覚障害のある方が触図と対話を通じまして作品を鑑賞できるように、特別展、AC展等で触図を製作し運用いたしました。また、キッズ+U18デーや障害のある方のための特別鑑賞会では、簡易型のカームダウンスペースの運用でありますとか、センサリーキットの貸出しを実施しているところがございます。

以上のとおり令和7年度は、特別展、企画展、コレクション展など、多彩な展覧会をはじめといたしまして、AC事業の各種取組を例年以上に展開しますとともに、公募展事業も見直しを図りながら着実に運営を進めてまいりました。また、ネクスト・クリエイション事業や「オールウェルカムTOKYO」など、都の施策にも積極的に取り組みまして、都の政策実現に貢献をいたしました。その結果、利用者数は1年ぶりに200万人を超えることとなりました。

説明は以上でございます。

金山部会長：どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの東京都美術館に関しまして、何か御質問等はございますか。

天野委員、よろしくお願いします。

天野委員：「刺繍」展は、コレクション展とともに行われて非常に好評を得たということでしたが、テーマとして豊かな可能性を持っていることが示された展覧会だったと思います。こうした企画展を拡充して特別展の行われるメインの広い会場でやるといったような方向性というのは今後ないのでしょうか。

貝瀬副館長：なかなかそこは難しいところございまして、企画展の構成自体が、全体の特別展とそれから公募展のバランスの中で、そのお部屋を使わせていただいていること

になっております関係上、今のところ、メインのところではなかなかちょっとという感じではございます。

天野委員：せっかく広がりのある、そして作家も多様でインクルーシブという意味でも非常に意味のある企画でしたので、もったいないなという気がちょっといたしまして申し上げます。

貝瀬副館長：ありがとうございます。今後検討させていただければと思います。

金山部会長：ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

名古屋委員、お願いします。

名古屋委員：お答えされるのが難しいかもしれませんが、昨年からトータルすると20万人強ぐらい全体での来場者が増えています。我々の業界の感覚では、例えば観光施設やホテルで年間でそれだけの数が増えると、相当現場の方に負担がかかったのではないかと心配になります。すごく努力されて企画展の内容もよかったから、たくさん人が来場されたと思いますが、これだけ人数が増えて、「とびら」のプロジェクトやほかにも新しい企画にも挑戦されていて、現場は大丈夫だったのかというのがちょっと気になりました。

貝瀬副館長：幸いなことに運営上は大きな問題は起こらず、7年度はしっかり着実に全て運営させていただいたところでございます。特別展の来場者数のことを申し上げますと、6年度から7年度にかけまして、6年度が特別展自体が1本少なかった年に当たって、なおかつ、7年度は「ゴッホ」展が非常に盛況でございました関係で、ちょっと数字が離れた形に出てきたとは思いますが、運営上は非常に全館挙げて頑張ってやっております。

名古屋委員：人数を増やされたりとか、そういうことはなかったのですか。

貝瀬副館長：特に大きく増えているということではございません。

名古屋委員：本当にお疲れさまでした。

貝瀬副館長：ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、ただいまの東京都美術館のプレゼンについては以上で終わります。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして庭園美術館の牟田副館長、どうぞよろしくお願いいたします。

牟田副館長：よろしくお願い申し上げます。東京都庭園美術館、令和7年度の主な取組につきまして御説明いたします。

当館が指定管理対象施設となって5年目となった令和7年度は、重要文化財に指定されている旧宮邸が建てられる直接的な契機となった1925年開催のアール・デコ博覧会から数えて100周年の節目となりました。当時パリ滞在中であった朝香宮夫妻がこの博覧会を見

学したことが、後にアール・デコの装飾で彩られた宮邸の誕生へとつながったという歴史的経緯から、当館では2025年をアール・デコメモリアルイヤーと位置づけ、祝祭感のある事業展開を図ろうということで、職員一丸となって取り組んだ1年となりました。

まず、そのメインコンテンツとなりましたのが、企画展「永遠なる瞬間 ヴァン クリーフ&アーペル」展です。この展覧会は、アール・デコ博覧会において、フランスを代表するハイメゾンの一つであるヴァン クリーフ&アーペルが出展した装身具が、宝飾部門でグランプリを受賞したことに加え、朝香宮夫妻が同博覧会を視察し、この展示も目にしていたという歴史的事実、また、メゾンが掲げるサヴォアフェール、すなわち職人の手技という理念が、旧宮邸の装飾を手がけた日本の職人たちの手仕事と共通することを見だし、メモリアルイヤーを飾るにふさわしい企画として、当館からフランス側に働きかけて実現したものです。

ヴァン クリーフ&アーペルが所蔵する歴史的に価値が高いとされるパトリモニーコレクションから約250点を選び、本館では空間と作品との同時代性から生み出される有機的な結びつきを重視した構成とし、室内装飾との調和や自然光を取り入れた展示など、邸宅の雰囲気を生かした当館ならではの鑑賞体験の創出に努めました。また、新館では、庭園をテーマコンセプトに動植物をモチーフとした幅広い年代の作品を展示し、あたかも宝飾品の庭を散策するかのような演出とともに、素材や制作技法にフォーカスした構成としました。本館と新館とであえて異なる視点を設けたことで、鑑賞順路の非連続性をカバーしつつ、アール・デコ期のジュエリーに関する多角的な理解と新たな発見を促す展覧会とすることができました。

会期中の総入場者数は12万7,000人余りと目標値を大きく上回り、2001年度開催の「カラヴァッジョ」展に次ぎ、歴代2位となる記録を達成しました。一方で、チケット管理システムを更新し、本展を日時指定の事前予約制として1日当たりの入場者数をコントロールしたことで、混雑の緩和と快適な鑑賞環境の提供を実現することができ、満足度の向上にも大きく寄与することができました。

旧朝香宮邸の建物にフォーカスした建物公開展「時を紡ぐ館」も、目標値を大きく超えて総入場者数6万7,000人余りと健闘しました。受託事業に位置づけられる建物公開展は、毎回異なるテーマ性を持たせて、新たな視点から旧宮邸を御紹介するというスタイルが好評を博し、リピーターの獲得へとつながっています。令和7年度は、旧宮邸の時代ごとの機能の変遷に着目し、開館以来初めて、戦後の旧宮邸の動向について取り上げた画期的な内容とすることができました。

本展では、地域連携にも意欲的に取り組み、当館同様に歴史的建造物を活用した文化施設である港区立郷土歴史館におけるサテライト展示と共同ワークショップを実現しました。同時代の建築空間を有する施設間において相互の来館を促したことで、地域文化交流の拠点となるべく取り組んでいる当館の存在感を存分に発揮することができました。本展の開催を機に、担当学芸員を中心として旧宮邸の来歴に関する調査・研究をより深化させるこ

とができ、文化財としての価値をさらに高めることができましたことも特筆しておきたいと思います。

昨年度は、駐車場の舗装工事を実施した関係で例年より展覧会の本数が少なくなり、前年度からの継続となりました「戦後西ドイツのグラフィックデザイン」展と合わせて、計3本の展覧会を開催しましたが、入場者数の合計は25万人余りと、前年度を大幅に上回る実績を残すことができ、当館プレゼンスの高まりを実感しているところです。

令和7年度は、また収蔵品の充実にも貢献した1年となり、新たに49件の美術作品・資料を収集することができました。このうち41件は、当館とも関係の深いルネ・ラリック作品であり、複数の個人より寄贈のお申出を受けて実現したものです。寄贈くださった方々からは異口同音に、最近の庭園美術館の充実した活動を拝見していて、長年大切にしてきたコレクションを託すにふさわしい施設だと確信したと、この上ないお言葉を賜うことができました。これはひとえに当館職員の努力と熱意の賜物であると、副館長として大変うれしく思っております。収蔵品に関連しまして、昨年度より配置されました司書業務を担当する職員による当館所蔵のアール・デコ関連貴重書籍・資料のデータベース構築及び公開も、特筆すべき事項として挙げさせていただきます。

装飾美術を活動の柱としている当館では、開館以来収集を続けてきたアール・デコ関連の貴重書籍・資料を多数所蔵しております。昨年度は、これらをデータベース化して一覧を外部に公開することで、今年度後半より予定している外部閲覧サービス実施に向けた環境の構築に努めました。アクセシビリティの向上にも引き続き積極的に取り組み、屋外サインの改修や各種プログラムの実施に加え、旧門衛所を活用したテーマ展示において、フラットデーほか当館のアクセシビリティに関する取組を紹介し、普及啓発の一助といたしました。

職員の創意工夫による魅力向上策については、庭園を活用した各種イベントにおいても成果を上げることができました。地域の事業者と連携しての庭園マルシェや庭園能、ミュージアムコンサート等、これまでの事業をより充実させる形で実施したほか、サマーナイトミュージアムの施策に合わせ、「夜会」と題した庭園での屋外イベントを開催し、好評を博しました。この「夜会」は、本館が建てられた1930年代に思いをはせつつ、ファッションを通じてアール・デコを体感する機会として、当時流行していたモボ・モガの格好でお越しく下さいという緩やかなドレスコードをアナウンスした結果、大きな反響を得ることができました。イベントへの来場者数は、通常の夜間開館時を大きく上回る約3,400人となり、新規の来館者獲得にも貢献しました。

さらに、昨年度は施設運営面でも新たな取組を実施しました。本館と新館とをつなぐ連絡通路に庭園からの動線を整備し、回遊性を高めたことで、庭園のみの来館者も新館ロビーへのアクセスが可能となり、ミュージアムショップやカフェ、新館内トイレを新たに御利用可能としたことで、利便性の大幅な向上へとつなげることができました。このことで、これまで単なる通路でしかなかった新館テラス周辺に人々が集うようになり、ショップや

カフェの売上げ増とも相まって見違えるような活況を呈しています。このほか、駐車場整備のための展覧会休止期間を有効活用し、本館オリジナル照明や寄木床のクリーニング、建物金具の点検整備など、文化財の維持保全にも努めました。

以上、令和7年度も、当館職員が一丸となって創意工夫を凝らし、満足度の向上とともに、さらなるプレゼンスの拡充に努めた1年となりましたことを御報告いたします。

以上でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、ただいまの庭園美術館に関しまして、何か御質問等はございますか。

浦島委員。

浦島委員：令和7年度とは少し外れてしまうかもしれませんが、今、日本全国各地で建築祭がすごいはやっているじゃないですか。あれにうまく乗れたりはしないのでしょうか、せっかくなので便乗したらもっと人が来るんじゃないかと。

牟田副館長：その点につきまして、今年度ですけれども、東京建築祭に参加させていただきまして、通常は非公開にしております本館の中庭を公開させていただきました。

浦島委員：ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。先ほど49件収集をしたということですが、これは寄贈ですか、購入ですか。

牟田副館長：購入と寄贈を合わせての49件となりますが、先ほどの御質問に補足の形で加えて回答させていただきますと、東京都コレクション検討会という会議体を新たに財団の中で立ち上げまして、その中で先ほどの収集予算の柔軟な配分ということを、まず第1回において適用させていただいて、散逸の危機にあるルネ・ラリックの作品、国内所蔵の作品を、特別予算を措置していただきまして、それを収集いたしました。それが5点ですかね、含まれております。

金山部会長：収蔵庫は広くなかったと思いますけれども、数があるとそれだけの収容スペースを取るわけですが、その辺はいかがですか。

牟田副館長：昨年度も御報告申し上げましたように、まず収蔵庫内の整理をいたしまして、スペースを有効に活用するとともに、家具ですとか大きな収蔵品につきましては、本館のほうの展示室のほうで常設するような形で、なるべく収蔵庫のスペースを取らないようにということは心がけております。何よりも作品が充実してきていることで、当館学芸のモチベーションがかなり上がっておりまして、それをきちんと分かりやすくきれいに収蔵しようということで、日々収蔵庫の中で作業をしているようです。

金山部会長：ありがとうございます。

あと安全管理について、セキュリティー関係はいかがですか。

牟田副館長：特に近年、海外等でも歴史的な建造物を使用した文化施設等において盗難事件が頻発しておりますけれども、当館においてもそういった懸念がありましたことから、ヴァン クリーフ&アーペル展、宝飾品を扱った展覧会では、ヴァン クリーフ&アーペル

社の助言もいただきつつ、当館において新たに監視体制の強化ですとか、あるいはセキュリティシステムの見直し等を行いまして、従来に見られた不具合点を是正することによって現在は、万全とは言いませんけれども、体制を強化しているところでございます。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、ほかによろしいですか。

それでは、時間になりましたので、庭園美術館のプレゼンについては以上で終了いたします。どうもありがとうございました。

牟田副館長：ありがとうございました。

金山部会長：それでは、ここでプレゼンについては一通り完了いたしました。どうもありがとうございます。

歴史文化財団の皆様、どうもありがとうございました。それでは、どうぞ御退出ください。

それでは、ここで休憩とさせていただきます。手元の時計で25分から再開したいと思いますので、よろしくお願いします。

（各館・歴史文化財団本部職員 退室）

午後4時15分休憩

午後4時25分再開

金山部会長：それでは、続きまして、「次第4 財務状況説明」に移り、各館及び指定管理者の財務状況について、松本専門委員から御説明をいただきます。

専門委員の方々の評価の視点に関しては、タブレット端末にございます参考資料「財務の状況及び施設サービスの実施状況調査 評価の視点について」を御覧ください。

それでは、松本専門委員、どうぞよろしくお願いいたします。

松本委員：それでは、施設ごとということで、まず東京都歴史文化財団、財団全体の間接部門についての財務状況でございますが、こちらは間接経費が発生する部門でございますので、そもそもが当然赤字予算になるということでございます。赤字幅は予算段階よりも改善しておりまして、それをもちまして、当然収入はないわけですので、財務的な問題はないものと認められるということで、評価を○にさせていただきました。

続きまして、東京都江戸東京博物館でございますが、これはPL上は休館時の指定管理料と受託事業費用がBSに計上されていたのを、再開ということで一気に両建てで計上されたため、両建てで大きくなっているという事でございます。リニューアルオープンをして当初赤字予算から黒字化しており、財務上の問題はないと考えられるということで、こちらの収支のほう、黒字が大きく出ているので財務状況は特に優れているということで◎とさせていただきました。

続きまして、東京都写真美術館でございますが、外部資金活用として支援会員からの資金がアップしているということ、それから自主事業収入が予算よりアップしました。また、自主事業費用に特定資産取崩しにより費用計上しているということございまして、こち

らも赤字ではあるんですが、予算からは若干改善した決算となっており、財務的には大きな問題となる事項ではないが、赤字ということで若干不安が残るということで△とさせていただきます。

続きまして東京都現代美術館でございますが、入場者数が目標に届かなかったこともあり、自主事業収入が大きく予算より落ち込んでおります。また、赤字幅も予算より大きくなり、財務的に若干不安が残るということで△とさせていただきます。

続きまして東京都美術館でございますが、自主事業収入、収益事業収入ともに予算より大幅にアップしておりまして、赤字予算から黒字予算に転換し、財務的には問題がないものということで○とさせていただきます。

それから、東京都庭園美術館でございますが、ショップの売上げが好調に推移しました。外部資金としましては昨年度多額の寄附金収入がありましたが、当該年度ではなかったということで収入がちょっと落ちていますが、収支自体は赤字予算から黒字化しており、問題はないものと考えられますので○とさせていただきます。

以上でございます。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、続きまして次第の「5 施設サービス状況説明」について、名古屋専門委員からお願いいたします。

名古屋委員：施設サービス部門の名古です。

評価項目としてはハード面とソフト面と両方あるのですが、ハード面は毎年大きく変わるということはないので、ソフト面のサービス状況やプロモーションなどの観点で評価のポイントをお話しさせていただきます。

まず、江戸東京博物館については、評価対象のほとんどの期間が大規模改修工事期間で、2025年最終日にオープンという特殊期間での評価となりました。改修期間中に、デジタルアーカイブ化が進んでいて、それが休館中に広報的な役割を担っていたと思いました。ある意味、研究機能を持つ博物館としての価値向上にもつながっているのではないのかと思いました。江戸東京博物館は、もう単なる展示施設ではなく江戸文化を継承する拠点、江戸文化を体験できる場としての役割やブランディングが、今回のリニューアルでさらに確立されたのではないのかと感じています。

一方で私が気になっているのは、「ハイパー江戸博」のアプリです。休館中のエンゲージメント維持の目的と聞いており、まあそうなんだろうと思いますが、今後も開発を続けるのであれば、最終的な目的や目標を明確にしたほうがいいのではないかなと思っています。開発技術を競う場ではないと思いますので、何のために使うのかは考えなければいけないのではないのでしょうか。都立施設におけるある意味実験的な挑戦だと認識しているので、すぐに来場者が増えるとか、金銭的なリターンというところは、必ずしも追わなくてもいいとは思いますが、社会的インパクトや学術的貢献、広報やブランド価値向上のような効果検証は、今後必要ではないかと思っており、そこを意識して進めていただきたい

と思っております。

たてもの園に関しては、過去最高の観覧数も記録していて、SNSでの一般ユーザーの反応から察せられるように、来園者がすごく満足していると感じました。映える写真スポットとして認知されているのかなとも思います。公的な施設ではありながらユニークなイベントを実施して、「楽しませたい」「学んでほしい」というような、ある種ホスピタリティみたいなものが感じられました。イベントがちょっとマンネリみたいな声もありますが、ハードと違ってソフトの部分は幾らでも改善できているので、今後も期待したいと思っております。

続きまして写真美術館に関しては、企業支援があるのが特徴ですが、やはり支援によってできることが増えていると思います。ですが、支援を維持するのが昨今非常に難しい中で、2025年度は支援企業が増加しているというのは、とても努力されていてすばらしいと思いました。PDCAシートにも展覧会ごとにアンケートを実施しているとか、顧客満足度調査を運営の参考にしているとか、来館者アンケートをウェブでも回答できるようにしましたという記載がありました。私も実際に訪問したときにアンケートがあったのを確認しています。こういった来館者の声を丁寧に拾って個別に運営に反映させるというのは、施設としてはとても大事なことなので、今後も続けてほしいと思います。

続きまして現代美術館は、来館者数がかなり減ってしまったということですが、公的施設なので集客だけでない役割もあると思います。入場者数の減少についてはそれほどフューチャーしなくていいのではないのでしょうか。来場者にはライト層とコア層があります。分かりにくい部分もある現代美術ですが、ライト層とコア層のバランスを取りながら、公的美術館として現代美術の価値提供を大事にしてほしいと思っています。

現代美術館の企画展を見ていると特に感じたのですが、企画展の検討は雑誌や本の編集に似ていると、個人的には思っています。大衆受けする企画とコアなファンやある意味オタク的な専門家をうならせる企画をどうバランスをとってみせるのかがキュレーターの腕の見せどころとなります。専門家でなくても分かる親しみやすいテーマと、東京都現代美術館として今提案すべきテーマがある中で、1年間の計画の中でどう配分して展開していくのか工夫されていると思います。そこが雑誌の編集に似ているなと私は感じて見えました。同じテーマでも切り口を変えて分かりやすくしたり、目新しくするという工夫も必要なので、編集者である私としては、今後も「あー、こう来たか」というような企画を楽しみにしたいと思っています。

東京都美術館に関しては、「刺繍 針がすくいだす世界」で学芸員の解説動画が18万回再生されてます。これはすごいことで、評価したいと思います。なぜこんなに再生されたのかと考えてみたのですが、刺繍という誰もが知っている親しみやすいテーマでありながら、芸術性の高い世界感を動画で表していて、それを専門家が質の高い解説をすることによって、ライト層からコア層までユーザーが幅広くなったということがポイントではないかと思いました。展覧会とリンクする形で投稿されているということもありますし、手

話動画も併用されていたので、そういう意味でも幅広いユーザーに見てもらえて、お勧めにどんどん出てくるようになって、再生数が伸びたのではないのかと思いました。

これを見ていて、学芸員による専門性の高い動画に需要があることを示したと考えます。専門家が難しいテーマを分かりやすく解説する、面白おかしく解説するのは、YouTubeの世界では人気のコンテンツです。今回の動画は、美術館・博物館の解説動画の一つの在り方みたいなものを示したのではないのかと、この動画を見て私は感じました。

続きまして庭園美術館は、S評価がついているだけあって、どこを見ても申し分ないと思っています。公式SNSの活用の仕方が本当に上手で、うまさが際立っていました。外部の会社も入れられたということです。それも要因だと思いますが、自分たちが発信するSNSでの投稿に加えて来館者自身によるSNS投稿を促すような仕掛け、例えば撮影可能エリアを設置したり、来館者を巻き込んだコミュニティー形成など、その辺がすごく上手だと思っています。

建物公開展などが分かりやすいと思いますが、建物そのものを見せる仕掛けや夜のイベント「夜会」の開催、レストランや庭園など美術館自体には来なくても楽しめるという要素、それらの組合せによって美術館でありながら人が交流する場所になっていて、一度は行ってみたいお出かけスポットの役割も果たしています。観賞するという目的だけでなく美術館運営の新しい形を見せていただいたなと思いました。

続きまして、6施設全体で共通して気になったのが、ウェブサイトでのチケットの購入についてです。6施設の中では、庭園美術館はウェブサイトでのチケットの購入の導線がすごくよくて分かりやすい。でも、それ以外の施設は非常に分かりにくくて、日時指定での事前予約は今積極的に進めていないということなのかなと感じました。コロナのとき、事前予約はどの館も一般化して、どこでも当たり前のようにやっていましたが、今は逆戻りしているように見えました。

予約せずに当日に購入できるというのは、来館者にとっては、思い立ってすぐに行けるので便利です。近くに住んでいる都民にとっては、それはすごく楽だなと思いますが、海外の有名美術館では事前予約はほぼ当たり前になっていて、混雑の緩和にすごく役立っていると思います。今後、東京都として美術館・博物館でのインバウンドの受入れ拡大を狙うのであれば、ウェブサイトでの事前予約の誘導は必須になってくるのではないのかと思っています。どの施設も事前予約システムはあるけれども、ウェブサイト内での導線がすごく悪いので、その改善は今後必要なのではないかなと思いました。

私からは以上となります。

金山部会長：大変御丁寧な説明をいただきありがとうございました。

それでは、次第に従いまして「6 審議」へ移らせていただきます。

進行方法についてですが、お手元の資料に管理運営状況評価、二次評価（案）について、各館ごとの内容を検討し評価を決定していきたいと思います。

それでは、江戸東京博物館から各館ごとに進めていきたいと思います。

まず、二次評価（案）について事務局から御説明をお願いします。

山添課長：では、事務局から説明をさせていただきます。紙で配付しています「資料2 二次評価（案）」を御覧ください。

まず江戸東京博物館になります。二次評価としてはAという形になっております。

管理の実施状況については○、適切な管理運営を行っている。

財務の状況については、先ほど御説明しましたとおり、○の意見の方が多くて◎の方もいらっしゃるというような形です。安定的な財務運営と運営基盤の強化を図っている。

事業の実施状況、資料の収集のほうですけれども、◎で○の方もいると、リニューアルオープンに向けて計画的に実施したものと、あとは休館中もデジタルアーカイブ公開を着実に推進したという形になっております。

事業の実施状況、展示については、◎と○の方がいると、休館中も積極的な事業展開を行って教育普及の推進を行った。

運営の実施状況について、○の方、◎の方がいらっしゃると、こちらリニューアルオープンに向けた機運醸成と認知拡大を行ったという形です。

施設サービスの実施状況については○、案内機能の充実ですとかバリアフリー対策など、サービスの向上を図った。

方針と目標の達成状況は○で、たてもの園を含めて基本方針に沿って事業運営が適切に行われており、たてもの園のほうでは入場者数を上回ったという形になっております。

説明は以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、事務局からの説明について御意見を伺いたいと思います。

まず最初に、各項目の評価と評価結果の確認です。まず、江戸東京博物館の二次評価（案）について、各項目の評価と評価結果、これについてはいかがでしょうか。これは例年のように頭のほうから確認をしていきたいと思います。

まず、管理状況についてです。管理の実施状況、これは全員○ということですので、総合評価は○ということによろしいでしょうか。

それでは、続きまして財務の状況、ここは松本専門委員のみ◎、ほかの方は○ということですが、数の上からいうと○ということですが、○も◎もここはあまり、ある意味ここでは総合的な評価で言うと同じ扱いになるかなと思いますので、○ということによろしいですか。

それでは、続きまして事業効果、最初に事業の実施状況についてです。資料の収集・保管・活用、調査研究等ということで、これは◎がお2人、私は○ですが、今日説明をいろいろと聞いておりましたら、◎に近い○ということになりますので、ここは◎ということと統一させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それから次の事業の実施状況、これについても今私がお話しした点と同じですので、◎ということと統一させていただきます。

それでは、続きまして運営の実施状況、これは浦島委員だけが○、あとは○ということですが、浦島委員、いかがですか。

浦島委員：○で大丈夫です。

金山部会長：よろしいですか。では、○ということで統一します。

それから施設サービスの実施状況、これは皆さん○ということですので、○でよろしいですか。

そして最後に方針と目標の達成状況、これも皆さん○ということですので、○ということでもよろしいでしょうか。

以上、上から順番にいきますが、○、○、◎、◎、○、○、○ということで、二次評価がAという評価になります。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは次に、コメント、特記事項欄の修正の有無の確認ですが、いかがでしょうか。ここにつきまして修正する箇所がございますでしょうか。ここには皆さん「特になし」ということですが、何か今日のプレゼンを通したり、あるいは質疑応答を通して加えておきたい点がございましたら、御意見いただきたいと思います。

よろしいですか。

では、これは「特になし」というままで確認をいたしました。どうもありがとうございます。

それでは、続きまして写真美術館についてに移らせていただきます。まず、二次評価（案）につきまして事務局から御説明をお願いいたします。

山添課長：では、写真美術館について説明させていただきます。

二次評価につきましては、AまたはSという形でなっております。

管理の実施状況につきましては○、適切な管理運営を行っている。

財務の状況についてですけれども、◎、○、△という形で御意見いただいております。支援会員の新規獲得ですとか、外部資金の拡充によって成果を上げたという内容で書いております。

事業の実施状況、資料の収集について、館の専門ネットワークを生かして、作品収集と資料の公開を進めているとしております。

事業の実施状況、展示について、こちら○と◎を意見いただいまして、優れた展覧会や映像事業を展開しているという形でコメントを書いております。

運営の実施状況につきましては○と、30周年記念事業ですとか、国際機関との連携を積極的に展開しているという内容を書いております。

施設サービスの実施状況につきましては○、あと◎、アクセシビリティですとか、ショップ・カフェ事業者と連携をコメントとして書いております。

方針と目標の達成状況につきましては、基本方針に沿って事業運営が適切に行われており、教育普及や関係機関との連携も含め成果を上げたという内容で書いております。

説明としては以上になります。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、確認をしていきたいと思います。要領につきましては先ほどと同じ扱いになります。

では、まず最初に管理状況につきまして、管理の実施状況、ここにつきましては皆さん○ということですので、○でよろしいでしょうか。

次に、財務の状況です。これは松本専門委員のほうが△ということですが、先ほど松本専門委員のほうからの発言にもありましたが、名目的には赤字だけれども、予算上は改善をしているということですので、実態としては問題は全然ないということです。ですから、△というよりは○あるいは◎ということでもよろしいのかなと思います。私のほうが○、天野委員と浦島委員が◎ということですが、これにつきましてはいかがでしょうか。

天野委員：外部資金の拡充が評価できるかと思って◎にいたしました。

金山部会長：これは外部資金の拡充は、前年というか、これまでに比べて額は増えているんですけど。あるいは維持なんでしょうか。

山添課長：これについては、これまでは減少傾向という形だったんですけども、このタイミングで伸びていますので、東京都としては高く評価をしているところです。

金山部会長：では、私のほうは○ですが、◎に近い○ということで変更させていただきます。

松本委員、よろしいですか。

松本委員：結構です。

金山部会長：では、◎ということで統一させていただきます。

それでは、続きまして事業効果について、事業の実施状況、資料の収集・保管等についてですが、これは皆さん◎ということですので◎でよろしいですか。ありがとうございます。

続きまして、事業の実施状況、展示・教育普及事業等、これは天野委員が◎ですが、いかがでしょうか。

天野委員：非常に興味深い展覧会をいつもやっていらっしゃるということと、それからコレクション展示もキュレーターの視点が光る展示でしたので、そこを評価させていただいたということですが、この年だけがそれほど突出しているわけではないといえそうです。皆さんの御意見に従います。

金山部会長：では、浦島委員、いかがですか。○のままでよろしいですか。

浦島委員：○でそのままで。

金山部会長：では、ここは○ということですのでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、運営の実施状況、これは皆さん○ということですので○になります。

次に、施設サービスの実施状況、これは浦島委員が◎、あとの方たちは名古屋専門委員も含めて○ということですが、いかがでしょうか。

浦島委員：○で大丈夫です。

金山部会長：よろしいですか。ありがとうございます。

それでは最後に、方針と目標の達成状況、これは○ということです。

では、確認をいたします。上から○、◎、◎、○、○、○、○、二次評価はAということになります。ありがとうございます。

それでは、続きまして特記事項、これは先ほどと同じように全ての項目「特になし」ですが、何か追加等ございますでしょうか。

金山部会長：よろしいですか。ありがとうございます。

このところ特記事項については「特になし」ということで、これで確認をさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、続きまして東京都現代美術館につきまして、事務局のほうから御説明お願いいたします。

山添課長：現代美術館につきまして二次評価はAという形になっています。

管理の実施状況ですが、○、適切な管理運営を行っている。

財務の状況につきましては○と△の方がいらっしゃいまして、助成金を獲得、財務運営と運営基盤の強化を図っていると書いています。

事業の実施状況の資料の収集のほうですけれども、◎、資料の保管管理・積極的な活用と、あとはデジタルアーカイブの充実と資料活用の促進で成果を上げていると書いています。

事業の実施状況、展示につきましては、○と◎の方がいらっしゃいまして、30周年記念の展示ですとか、新しいプロジェクトの実施などを展開していると書いています。

運営の実施状況につきましても○と◎、国際連携を推進と地域の協働について取り組んでいる。

施設サービスの実施状況につきましても○と◎、ショップ・カフェ事業者と連携した事業運営を実施している。

方針と目標の達成状況についても○、基本方針に沿って事業運営が適切に行われて、質の高い常設展・企画展を継続的に実施していると書いてあります。

以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、同じ要領で確認をしていきます。

まず、管理状況、実施状況につきまして、これは皆さん○ということによろしいですか。

では、続きまして財務の状況です。松本専門委員が△ということですが、これも名目的なものということになります。入館者が多少減ったということですが、これは先ほどのいろいろな質問や質疑応答でもありましたが、これまでがちょっと高過ぎたと、むしろこの辺が昨年度が平常だという、そういう説明もありましたので、ここは松本専門委員、いか

がでしょうか。○ということによろしいでしょうか。

松本委員：○で結構です。

金山部会長：ありがとうございます。それでは、ここは○ということになります。

続きまして事業効果につきまして、事業の実施状況、資料の調査・保管等につきましてですが、これは皆さん◎ということで◎にさせていただきます。

次に、事業の実施状況、展示等につきまして、これは天野委員が◎で私と浦島委員が○ですが、天野委員、いかがでしょうか。

天野委員：これも30年記念のコレクション展などの展示が、力のこもった展示でしたし、そういうところを評価したいと思って◎にいたしました。

それから、特別展のほうも非常にユニークな、現代アートの多様な視点に基づく展示を継続しているという点でも評価したいと思いました。

金山部会長：浦島委員、いかがですか。

浦島委員：どちらでも大丈夫です。

金山部会長：よろしいですか。他の館もみんなやっぱり展示、教育普及活動が充実をしているんですね。それで○が普通なんですよ。それでも特にとということであれば◎ということですが、天野委員は特にとという意味でよろしいんですか。

天野委員：いつもここは非常に充実しているので、今回のことで特にと言うなら30周年記念の歴史的な展示などがあげられるかと思いますが、そんなにこだわるわけではありません。いつもここは割合展示が充実しているという感じですね。

金山部会長：そうですね。いつもここは◎というところですかね。それでは、ここは◎ということによろしいですか。変更いたします。

それでは、運営の実施状況について、これは先ほども説明がありましたが、私が◎ですが、○ということに近い◎ということですので、○にさせてもらいます。

次に、施設サービスの実施状況、これは浦島委員が◎ですが、名古屋専門委員含めてほかの方は○なんです、いかがでしょうか。

浦島委員：○で大丈夫です。私はいつもカフェを見てしまうのですけれども、ここは本当に親子連れが多く、親子連れがウエルカムな飲食店は美術館以外でもあまりないので、すごいいいなと思って◎にしたんですが、○で大丈夫です。

金山部会長：よろしいですか。確かに親子連れが多いことはいいところですよ。

それでは最後に、方針と目標の達成状況、これは○ということによって皆さん一致しておりますので、○になります。

それでは、確認をいたしますが、上から○、○、◎、◎、○、○、○で二次評価はAということで、これは変更がありません。

続きまして特記事項、これは特にないということで、全てそうとなっておりますが、何か御意見、追加につきましてございましたら、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、特記事項については、このまま「特になし」ということで確認をさせていただきました。

それでは、続きまして東京都美術館に移りたいと思います。事務局から御説明をお願いいたします。

山添課長：東京都美術館につきまして、二次評価はAとなっております。

管理の実施状況、○、適切な管理運営を行っている。

財務の状況についても○、助成金の獲得と、あとは安定的な財政運営と運営基盤の強化を図っていると書いています。

事業の実施状況、資料の収集のほうですけれども、○と◎の方がいらっしゃいまして、アート・コミュニケーターと協働した野外彫刻の保全ですとか、あとは収蔵品の管理、美術館の活動の充実を書いております。

事業の実施状況の展示ですけれども、◎と○の方がいらっしゃいまして、特別展・コレクション展での高い評価、集客実績を挙げております。

運営の実施状況については○、上野の文化施設との連携事業の展開ですとか、あとは集客促進に成果を上げた広報を書いております。

施設サービスの実施状況につきましては、○と◎の方がいらっしゃいまして、アクセシビリティ対応、あとはショップ・レストランの事業者との連携を書いております。

方針と目標の達成状況については○と◎の方がいらっしゃいまして、こちらは基本方針に沿って適切に行われており、特別展・企画展ともに入場者数の目標を上回ったと書いております。

説明は以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、確認をしていきたいと思います。

まずは管理状況、管理の実施状況について、これは皆さん○ということです。

それから財務の状況、これも皆さん○ということになります。

それから次に事業効果、事業の実施状況、資料の収集等につきましてですが、これは浦島委員が◎、いかがでしょうか。

浦島委員：○でもいいのですけれども、今回アート・コミュニケーターさんと野外彫刻のお掃除をしたということで、私がパブリックアートの研究をしているので、すごくいいなと思っている。というのは、これは合法的に触れるんですよね、作品を。マテリアルとかは、彫刻は特に見てしか感じられないんですけども、ここのお掃除をすることで、石であったり金属であったりというのを、普通に触って確かめることができるので、非常に良い鑑賞体験だと思うので、これ、本当はアート・コミュニケーターさん以外でも、ちょっと触ってみたい人を募集してお掃除をするみたいな企画をやってもいいのではないかと思います。とともいい試みだと思ったのですけれども、○でいいです。

金山部会長：確かにいい試みですよ。ありがとうございます。

では、ここは○ということにさせていただきます。

続いて、事業の実施状況、展示・教育普及事業等につきまして、ここも浦島委員が○、ほか私と天野委員が◎ですが、いかがでしょうか。

浦島委員：◎で構いません。

金山部会長：いいですか。では、◎ですね。

運営の実施状況、これは皆さん○。

次に、施設サービスの実施状況、これも浦島委員は◎ですが、ほかの方は名古専門委員も含めて○ですが、いかがでしょうか。

浦島委員：○で構いません。

金山部会長：よろしいですか。

それから最後、方針と目標の達成状況、浦島委員、いかがでしょうか。

浦島委員：○で大丈夫です。

金山部会長：○でいいですか。ありがとうございます。

それでは、確認をいたします。管理の実施状況からですが、○、○、○、◎、○、○、○、総合評価はAということになります。

続きまして特記事項、これは「特になし」ということになりますが、いかがでしょうか。追加等ございますか。

特になれば、「特になし」ということで確認させていただきます。ありがとうございます。

それでは最後になりますが、東京都庭園美術館につきまして事務局から御説明をお願いいたします。

山添課長：庭園美術館について、二次評価は、SまたはAとなっております。

管理の実施状況、○と◎の方がいらっしやいまして、重文であることを踏まえて適切に維持しながら、専門的な意見も聞きつつ、より円滑な保存・活用の方向づけを行っているを書いております。

財務の状況については○と◎の方がいらっしやいまして、適切な収支の状況、物品管理を行っているを書いております。

事業の実施状況、資料の収集についてですけれども、皆さん◎になっていまして、建物公開展を初め、本館そのもののすばらしさをアピールし集客につなげている点を書いております。

事業の実施状況、展示についてですけれども、◎と○の方がいらっしやいまして、庭園美術館ならではの個性的な鑑賞体験の提供を書いております。

運営の実施状況につきましても◎と○の方がいらっしやいまして、地域連携ですとかユニークベニューも含めて積極的に取り組んでいることを書いております。

施設サービスの実施状況についても◎と○の方がいらっしやいまして、文化財の保存と来館者の快適性を両立させているということと、あとはカフェ、レストラン、ショップな

どの附帯施設で、充実したサービスの提供ということで書いております。

方針と目標の達成状況につきましても◎と○の方がいらっしゃるしまして、保存活用計画ですとか、あと今取り組んでいるグランドデザインのことを書いております。

加えて、こちらS評価を行う場合には、「特に評価すべき点」について書くことが求められますので、S評価にした場合につきましては、ここも必ず記載するという事で御意見いただきたく、現状では、庭美からの説明がありましたけれども、「夜会」についての特徴的な取組ということで挙げております。

説明としては以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、まず評価について確認をしていきたいと思いますが、まず管理状況、実施状況について、これは天野委員が◎ということですが、いかがでしょうか。

天野委員：これも毎年ここはとても管理をしっかりしているのでそのように評価しましたが、毎年のことではあるので、それは○とすべきだということであれば○だと思います。

金山部会長：それでは、○ということによろしいでしょうか。

天野委員：はい。

金山部会長：次に財務の状況、これは浦島委員が◎ですが、いかがでしょうか。

浦島委員：○で大丈夫です。すごいこちらはオリジナルグッズが非常に高価なものを展開されているので、頑張っているなと思って◎にしたのですが、○で大丈夫です。

金山部会長：いいですか。

浦島委員：はい。

金山部会長：では、○ということになります。

では、事業の実施状況、資料の収集等につきまして、これは皆さん◎ですので、◎ということによろしいでしょうか。

次に、事業の実施状況、展示・教育普及事業等につきまして、これは天野委員が○ですが、私と浦島委員が◎で、アール・デコ100周年事業がここに記載されておりますが、いかがでしょうか。

天野委員：私はアール・デコ100年だからこそ、これに関連するのがヴァン クリーフというメゾンの展覧会のみであったところは少し物足りない気がしました。本来は、ここはやはり庭園美術館ならではの、キュレーター企画によるアール・デコのオリジナルな展覧会を期待しておりました。メゾン展は実はここだけではなくて、去年ブルガリの展覧会を別のところでもやっていました。もちろんヴァン クリーフがアール・デコ博に参加したり、すばらしいアール・デコのオブジェを作っているというのはもちろんそうなんですけれども、できればここは、キュレーターさんが、アール・デコについてこれまで積み重ねてきた研究の成果を、ぜひこの年だからこそ見せてほしかったという思いがありまして、それで○にさせていただきました。

金山部会長：なるほど、浦島委員、いかがでしょうか。

浦島委員：私も実は卒業論文がアール・デコなので確かにちょっとそういうところもありますね。私は◎にしたんですけれども、確かに宝飾品じゃなくてアール・デコは、結構生活そのものだったりするので、音楽にもアール・デコの要素があったりとか、そういうところも見なかったなとは思いますが、確かにメゾンだけだった。もうちょっと欲しかったなというのはあります。

金山部会長：メゾンというのはどういう意味なんですか。

天野委員：ブランドです。ヴァン・クリーフという特定の宝飾ブランドの展覧会でした。特に新館のほうは、確かに庭のテーマで美術館とは繋がるのですが、見ようによっては技術力をはじめ、ブランドのアピールに、ちょっと終わっていたなという感じがしたんです。もちろんアール・デコの作品は含まれてはいましたし、展覧会としてはそれは素晴らしいものでしたが、2025年に庭園美術館がやるならもう少し違う形もあつたのではなかったかという気がちょっとしました。多分集客はこのほうが絶対あるんです。それはもうすばらしい宝石が見られますので、観客の満足度は高いと思いますし、この展覧会をやるのは良いと思うのですが、その一方でやはりキュレーターさんが、朝香宮の行った25年のアール・デコ博はどういうものだったのかといったことを、これまでの研究を積み上げて、何か独自の視点で見せるというようなものがあってもよかったかなというふうに思いました。アール・デコ博100年という年でしたので、ちょっとそれを期待していたものですから。

金山部会長：じゃ、このところは確かに今のは一理あると思いますので、浦島委員も○に近いですか。

浦島委員：そうですね。

天野委員：例えば観客満足度とか集客という意味では十分意味がありました。ただ、何を美術館に求めるかということを考えますと、この年こそ装飾芸術やアール・デコ研究の拠点としての何かを見せてほしかったという期待がありました。

金山部会長：ちょっとペンディングにしましょう。

先へ進めます。運営の実施状況、これはいかがですか。これも天野委員は○ですが、ほかは私と浦島委員は◎、これは地域連携、ユニークベニュー活用等ということで、そのところが評価されておりますが。

天野委員：これは何か突出したことというのは、やっぱり「夜会」なんでしょうか。

金山部会長：「夜会」でしょうかね。

天野委員：その「夜会」は、モボ・モガのコスチュームで皆さんが集まって、というものです。これは全体として言えることだと思うんですけれども、庭園さんは庭園の建物を生かして、みんなが訪れる場としての魅力というのを盛り立てるということは、大変成功していらっしゃると思うんです。

ただ一方で、せっかく図書館を充実させたり、データを公開したり、図書館自体を一般に開いたり、あるいはコレクションの充実も含めて、アール・デコの研究拠点としての充

実という努力もされていると思いますので、こうした側面とイベントをどう有機的に結びつけていくかというのが、今後の課題かなという気がいたしました。もちろん、こうしたイベントをきっかけに、ここはこういうところなんだなというのを知っていただけるという意味では有益ですので、これ自体は悪いことではないと思っております。

金山部会長：それでは、ここは◎ということでもよろしいですか。

天野委員：はい、結構です。

金山部会長：では、ここは◎ですね。

次に、施設サービスの実施状況、これは私とそれから専門委員の名古委員が◎ということですが、いかがですか。名古委員、いかがですか。

名古委員：今の天野先生のお話をお伺いして、運営実施の項目で評価されているポイントと施設サービスの項目で私自身が評価しているポイントが、重なっていると思いました。私は施設サービスという視点で評価しているので、いかに裾野を広げて、ライト層に受けるような様々な工夫をされているのかという部分を評価して◎にしましたが、先ほどのメゾン展とアール・デコとしてというお話を聞いていると、私は美術批評という意味では素人なので、アール・デコと言いながらメゾン展であったものを喜んで、すばらしいなと思って鑑賞していました。専門家の御意見を聞くと、「なるほどな」と感じました。私が先ほど説明したライト層とコア層のバランスをどうするかという話も、ここの評価につながっているなと思いましたので、どちらかが◎でどちらかが○にするのがバランスが取れるのではないのでしょうか。

金山部会長：それは、どちらかが◎、○というのは、前の運営の実施状況との。

名古委員：そうですね。

金山部会長：ここは◎ですね。

名古委員：運営は◎になったんですが、その項目を◎にするのであれば、施設サービスの項目は○にする、あるいは逆にする。そのようにするのがよいのではないかと思ってお聞きしていました。

金山部会長：天野委員、いかがでしょうか。

天野委員：施設サービスというのはカフェとかレストランとかなどでしょうか。もちろん、良いと思いますが、特にこの年に特別な活動があったという認識がなく、普通にいつもながらいいなというので○になったというだけです。

金山部会長：浦島委員はいかがですか。

浦島委員：私は運営の実施状況で、地域との連携とサービスはアクセシビリティみたいな感じで分けているので、どちらがどちらでも構わない感じです。

金山部会長：どなたかのコメントにもあったけれども、地域を取り込んだ特徴ある事業展開をしているというのは、それはアール・デコというのは何か軸にはあるのだろうけれども、そこは他の美術館にはない一種独特な文化があるんですよね。そこはすごい面白いなと思いました。運営の実施状況でもあるけれども、施設サービスの実施状況でもあるの

かなというふうに思ったのですけれども。

名古委員：私もコメントしたとおり、美術館の鑑賞するだけじゃない目的を生み出されている。「夜会」もそうだなと思いますが、鑑賞するだけではない新しい楽しみ方や、人が交流する場所をつくられているところが、とても良いと思っています。そういう意味で私はサービスの項目を◎にしました。庭園マルシェやコンサートの開催なども評価しているので、二重評価になっていると私も感じました。

杉山部長：ちょっと一言、補足をさせていただきます。。

私も美術館について本当に素人で楽しく見たのですが、実際、特に本館の展示については、自然光を取り入れたとか、そういう意味では非常にあそこで展示する意味があったのかなというのが新鮮な感じで見たというのは、新館のほうはいささか技術を強調したりとか、そこら辺が企業デザイン、ブランド的なところが出たのかなというのは、確かにおっしゃるとおりかなと思って聞きました。

それから、地域の連携、「夜会」だけじゃないんですけれども、実際目黒から庭園美術館に至るまでのお店、いろいろありますけれども、そこを基本的に職員が全部回って出店しませんかというようなことを呼びかけて、その店の特徴のあるメニューをそこで再現してもらったりとかというのが、安易にエリア外のキッチンカーを呼んできてというようなマルシェではなくて、食べ物だけじゃなくて手作りの物品も売ってもらったりとか、そういう意味で、初めて庭園美術館に来るお客様を呼び込んで、そこがまたアール・デコとか関係なく、知らなかったかもしれないけれども、庭園という一つのまた魅力を通じて美術館にも親しんでもらうというような取組をやったというようなことが運営のところかなと、あと施設サービスのところでは、動線の変更という話もありましたけれども、これまでカフェに行くためには美術館のチケットを買わなければ入れなかったわけなんですけれども、コラボメニューだったり、そのカフェが非常に人気があって、カフェに行くためだけに中を素通りしてチケットを買って入るような方もいらっしゃったので、トイレを使っていたくのも含めて庭園からそのまま直接入れるように、その分、人によるチケットのチェックみたいなところも一手間増えてはいますけれども、庭園に入る料金だけでカフェに抜けて行けるという動線をつくったというふうなことも、施設サービスとしては向上したかなというふうには思っております。

天野委員：最後の新たな動線づくりといった部分は、今年やった新しいサービスとして評価できるのではないかと思いますけれども。

金山部会長：あれだけの規模は決して大きいとは言えないし、それから人数もかなり他館に比べれば限られているし、その中で、今おっしゃったようなサービスを向上させているというところは認められるということだろうと思うんです。

いかがでしょうか。この最後のところの施設サービスの実施状況については、◎ということでもよろしいでしょうか。特に異論がなければ、◎ということにさせていただきます。

それから、では最後になりますが、方針と目標の達成状況、これについてはいかがでし

ようか、天野委員が○ですが。

天野委員：これも繰り返しになりますが、つまり美術館の役割は何かということだと思います。建物の魅力はすばらしい、来て楽しい場にするという努力はすばらしい。そうした点では非常に努力されていると思います。加えて、美術館として装飾芸術やアール・デコの拠点作りの努力も図書館の充実をはじめ続けてこられたので、この側面を学芸の研究成果を展覧会等を通してパブリックな活動と繋げてゆくという方向でさらに期待してゆきたいというところだと思います。

金山部会長：これは入場者については大分上回ったんではしたか。

山添課長：はい。

金山部会長：これまでになく入場者は増加したということですね。だから、例年と同じで◎ということではないということで、特に昨年度は増えたということで、庭園美術館は、このところ随分頑張っていますよね。繰り返すようですけども、小規模な館で、しかも人数も限られ、職員も限られている中で、それで、施設も維持管理していくのも相当神経を使っていると思います。その中で入館者も増やし、学芸員の力もあって展覧会も、そういう専門的なものもやるけれども、一般受けするようなものもやり、そこを調和を取りながらやっているという結果が入館者が増えているということだし、満足度も高いし、それからブランド価値も高まっているということは、その結果なんだろうと思うんですね。だから、特にそういう最近の状況を照らし合わせてみると、僕は二次評価としては、ここはSにしたいと思っている。その結果が、最初に二次評価の案でSということには出てきたと思うんですね。

だから、個別のところで評価していくと、「いや、ここはちょっと厳格に言えばこうじゃないですか」という意見はいろいろあると思うのだけれども、委員長としては、全体を見て総合的に二次評価はSに持っていきたい。そこはちょっと他館とは差別化して考えていきたいなというのがあります。いかがですかね。そういった意味で言うと、例えば方針と目標の達成状況のところと、あと先ほどの事業の実施状況のところですよ。展示・教育普及事業のところか、ここはペンディングに今なっている。◎か○かということなんだけれども、そこは天野委員、いかがでしょうか。

天野委員：全体をもちろん頑張っているのもSにするでもいいと思います。魅力的な場所であるということと、研究を背景に装飾芸術や芸術の理解を深めて伝えてゆくといった美術館本来の使命とが、うまく有機的に結びつくよう今後の更なる活動を期待しているということが、どこかで伝わればそれで結構ですので、評価はSで結構です。事業のところの評価では、そうしたことが伝われば良いかと思いました。

金山部会長：事業のところは○ですか。

天野委員：それは皆様のご判断で結構です。

金山部会長：そういう意向が伝わればよろしいわけですよ。それがまた館のほうの今後の活動に反映していくという、そういう道筋をつけたいということですよ。

山添課長：そこは、責任を持って都が対応させていただきます。

天野委員：それで結構です。

金山部会長：ということで、よろしくお願いいたします。

それでは、○にしましょう。

最後のところの方針と目標の達成状況、ここは◎ということによろしいですか。

では、そういうことで確認をします。最初に管理の実施状況からですが、○、○、◎、○、◎、◎、◎。

それでは、続きまして特記事項につきまして、これはS評価であれば、特に評価すべき記載をここには入れなくちゃならないわけですが、この辺の文面についてはいかがいたしましょうか。このままでよろしいのか、あるいは、何かここは文面を変えたほうがよろしいですか。

天野委員：これだけだと「夜会」だけが突出して素晴らしいことだったように見えてしまうので、「『夜会』を初め」とか、そのぐらいにしたほうがいいかなという気はします。ほかの、建物をちゃんと修復しているとか、動線を変えたとか、いろいろなことが多分ここに入ってくると思いますので、それも含めてというようなニュアンスが入ったほうがいいかなと。

金山部会長：そうしましたら、今の天野委員の意見を含めて、事務局でここをもう一度練り直していただき、後で確認を皆さんに送っていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

山添課長：はい、承知しました。

金山部会長：それでは、どうもいろいろとありがとうございました。

以上をもちまして、江戸東京博物館外6施設の指定管理の評価結果について審議結果ということで出させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは最後に、総評といたしまして、これも恒例で毎年やっていることですが、都立文化施設の全般あるいは東京都に対する意見など、委員の皆様方から頂戴したいと存じます。

いかがでしょうか。全員一言ずつ御意見いただければと思いますので、いかがでしょうか。

そうしたら、松本委員からよろしいですか。

松本委員：コロナがもう完全に影響がなくなって、安定飛行にほとんどの館が入っているかなという印象を持っております。その中でもできることをいろいろ企画・運営してやっていたらしゃるのかなと思って、私の印象としては頑張っているなという感想を持っております。

以上です。

金山部会長：名古委員、よろしくお願いいたします。

名古委員：今日は公的な美術館としてどうあるべきかを私自身も考えるきっかけという

か、勉強させていただいたと思っています。サービス部門を専門的に見るという立場もあり、自分自身も民間の企業で仕事をしているということもあるので、どうしても数を追うとか、私たちの仕事で言うと、雑誌をいかに部数を増やすかみたいなのところを求めているという習性上、ライト層を狙うというのは、裾野を増やすという意味ではすごく重要な施策ではあるのですが、一方で美術館としてやるべき業務、それは決してたくさんの人には受けないかもしれないけれども、美術館としてやるべき業務というのがあって、こののをすごく感じました。

あともう一つが、美術館・博物館の料金は簡単には変えられませんが、検討はしてもよいのではないのでしょうか。事前予約システムのことを今日お話ししましたが海外では年齢や居住地、時間帯によって弾力的に料金を変動させている美術館もあります。事前予約システムがマストの施設が多いので、それが可能となっています。料金を変動させるということの是々非々は別途議論するとして、オペレーションとしては、事前予約のシステムをマストとしなければ入場口での大混乱を招くことになると思います。すでにインバウンド客は激増していますが、今後美術館や博物館へもインバウンド客を増やしていこうと考えるのであれば、変動料金やそれを実行するためにどういう仕組みが必要なのかは議論してもよいのではないのでしょうか。私自身も勝手な研究テーマではないですが、このことについて考え続け、世の中の動きについても、注目していきたいなと考えています。

以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、天野委員、お願いいたします。

天野委員：いろいろ話しましたがけれども、私も本当にどの館も人やお金の限界の中でのすごく頑張っていると思うんですね。どの館もととても魅力的な活動を継続していると思うと、いつも各館へ行くたびに思っています。だからこそ、今後ぜひ働く人の働く環境であるとか、その人たちがやりたいことをちゃんと実現できているかどうかといったことも含めて、よりよい活動ができるようなサポートの体制というのを、さらに充実させていけるといいんだろうなというふうに考えております。

金山部会長：ありがとうございます。

では、浦島委員、お願いします。

浦島委員：ちょっと要領を得なくて長くなっちゃうかもしれないんですけど、最初に一次評価の御説明をいただいたときに都美術館さんが、「ミロ展」にあまり思ったより人が来なかったというので、何でですかと行ってさらに問いかけたところ、ライトユーザーにうまく響かなかったみたいなお話しいただいて、本日も東京都現代美術館で、ライト層の訴求に課題が残ったので今年は人が来なかったというお話をいただきました。その点、東京都庭園美術館さんはライト層に向けてのアピールがすごく上手で、だから華やかな結果が出ているんですけども、さっき言っていたアール・デコ展とかは、アール・デコは、もともと第一次世界大戦が終わってヨーロッパに平和が訪れて、植民地の文

化が一気になだれ込んでという、すごいミックス文化なんですけれども、そういう上澄みと言うのは失礼なんですけれども、そのきらきらしたきれいな部分がヴァン・クリーフであったりラリックであったりですけれども、もうちょっと下を掘ってみると、どろどろしたアフリカとかアジアから持ってきたものというのが基にあってという、「ちょっと大丈夫なのか」とこの頃考えてしまうような文化ですけれども、そういうのを、本当だったら1925年から100年後に、しかも去年万博もあったので、万博だってアール・デコの文化の結構エッセンスだったりするのですけれども、そういう俯瞰したものを庭園美術館さんだったらきっとできるのだろうなと思っていたので、少し残念だったなみたいなのところがあるので、何を言いたいかというと、ライトユーザー向けのきらきらしたものも大事なんだけど、もうちょっと深いのもという、うまくバランスを取ってほしいなというのと、あとまた置いておいて、ちょっとまた個別の攻撃をしているわけじゃないんですけれども、恵比寿映像祭は、そういうライトユーザー向けのものが全く考えられてなくて、自分の好きなものだけがたっぷりやっているので、これはこれで面白いのだけれども、もう少し意識してもいいんじゃないかなと思ったりもしている今日この頃です。

以上です。

金山部会長：よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、私のほうからですが、今、御存じのように国立博物館・美術館が非常に厳しい状況になっている。御存じのように財務省のほうからいろいろと文化庁が注文をつけられて、文化庁が所管する国立博物館・美術館についてはいろいろなハードルが課せられて、おまけに国立のフィルムセンターは、ついに経常経費が切られると、それについてクラウドファンディングを1億円募集して経常経費の穴埋めをするという、とんでもない状況になっているわけです。

一方、この東京都の文化政策というのは、国と違ってちゃんとビジョンを持って、東京都のビジョンの中で位置づいて実施をしているし、その裏づけになっているのが財政ですね。ちゃんと予算を確保して、決して潤沢とは言えないけれども、他の公立館に比べるとはるかに安定的な財政状況になっているということ、だから、人材についてもそれに見合うだけの人材が、これも完全に満足する状態とは言えないけれども、比較的皆さん仕事でやる気を持って、ある意味では仕事で報われる、その結果が研究の成果だとか展覧会だとか、そして入館者というものにそれがはね返って、それで見える状況になっているのだろうというふうに思うんです。

言ってみれば決して悪循環ではなくて、好循環に近い形で運営できているというのは、とても恵まれているなというふうに思うし、この状況を維持し、またさらに発展していける取組を、これからもぜひ東京都のほうにお願いしたいと思っております。これはやっぱり努力しないと維持していけないので、不断の努力が必要だと思います。

今日いろいろプレゼンにおいて各館の方々は真剣に仕事に取り組んでいるし、やる気を持ってやっているので、それに応えるような形で、ぜひ事務局の東京都には今後ともよろ

しくお願いしたいと思います。

それからもう一つは、庭園美術館のことですが、成果が出てくると物が集まるんですね。だから、ルネ・ラリックのコレクションというのを、昨年度何点か購入した。これは全体の総額予算の中で重点配分をして、庭園美術館がルネ・ラリックの作品を購入することで割り当てたということを、さっき聞きました。

そうすると、今の庭園美術館のあの施設でちゃんと365日維持管理するというのは、結構リスクだと思います。だから、盗難先として狙われると非常に厳しい。狙われたら防ぎようがない、だから、そういった特定のコレクションについては、他のちゃんと安全管理ができて、例えば現代美術館だとか、警備がしっかりしたところの収蔵庫に保管をするという形で、その辺の連携も考えていただきたいなと思います。これは事件があってからではもう取り返しがつかないので、ぜひ検討をしていただきたいと、これも要望ということでお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして美術館・博物館部会を閉会いたします。

進行を事務局へお返しします。どうもありがとうございました。

山添課長：これで美博部会は終了となります。長時間ありがとうございました。週明け8月5日に今度はホール部会のほうがありますので、重複して参加される方は、ぜひよろしくお願いいたします。

以上で、委員会を終了します。ありがとうございました。

午後5時47分閉会

以上